

1年生で実施 俳句コンテストに迫る



“新しい感性”で 今この瞬間を大切に

今回は俳句コンテストを主催されている国語科の堀井隆江先生に取材を行った。俳句コンテストは1年生対象に行われており、生徒が投句した作品を堀井先生が評価し、Classiと教室前廊下に掲示されている。

▲俳句について熱く語る堀井先生

堀井先生は俳句コンテストを始めた理由を「数学で数学コンテストをすると聞いたことがきつかけだ。すぐくおもしろそうだったので俳句コンテストでもみんなが主体的に取り組んで出してくる姿勢を期待した」と明かされた。また俳句の良いところを「感性を磨くことができる。俳句は自分の感動を表現する。それはなかなか普通の授業ではできないことだ」と説明された。堀井先生は俳句を詠むときのポイントやコツを「まずは発見、感動。それが根本にならなければならない。だから上手下手よりもまず発見や感動をいかに切り取るかがポイントだ。自分で発見したことや感動したことを切り取り、十七音に込める。昔の俳句を見て真似しようと思わずに新しい感性でどんどん変えていくことが大切であり、それを恐れないのが俳句だ。イメージしたことを詠ん



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校
新聞部
彦根市金亀町4番7号

堀井先生セレクト!

1年生の花丸俳句

大空に己の意味を問う案山子
ただのかかしが「己の意味」という哲学的なことを己に問いかけている。そのあたりに対比のおもしろさを感じた。

空高しリュックの底にあるテスト

「リュックの底にあるテスト」という表現で点が悪いということを表している。俳句はすべて表現してしまうと面白くなくなってしまふ。こうして直接「点が悪かった」と言わずに読み手に伝える表現をしているところが良いと思う。また空の「高い」とリュックの「底」が対比しているところも面白い。

梅雨の朝守り切れない デカリリュック

デカリリュックにちよつとしたおかしさや悲しさもあるところが面白い。楽しさや悲しさ、辛さを直接言わずに詠者が想像した実景や心情を読者み感じさせることができるのが俳句だ。この句はそれがうまくできているのでとても良いと思う。

だ俳句は実際に見たことを詠んだ俳句よりも劣ってしまう。だから今この瞬間を大切にしたい」と笑顔を見せられた。

最後に生徒に向けて「俳句と向き合うときは、教室がすごく静かになる。その静かになった瞬間はみんなが自分の奥と向かいあっていることを感じる。それが東高生のすばらしいところだと思う。東高

生はみんな豊かな感性を内に秘めている。だからそういうところをすごく大切にしたい。感性がないと思ってしまう人もいるかもしれない。だがそういう人にも必ずある。みんな勉強や部活で大変だとは思いますが、大変ななかで乗り越えた風景はきつとすばらしいものだと思うし、そういうところも表現してみたい」とメッセージを送られた。

だ俳句は実際に見たことを詠んだ俳句よりも劣ってしまう。だから今この瞬間を大切にしたい」と笑顔を見せられた。